

弟子屈町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

弟子屈町は北部を中心に畑作地帯となっており主にばれいしょ・てん菜を栽培し、近年では小麦・そばを輪作体系の一環に取り入れている。

土質については屈斜路カルデラ内にあり、摩周系の火山灰土に覆われ一部沖積土の分布しているところもあるが大半は植壤土で一般に地味に乏しく酸性土壌で地力の減耗が著しい。

また北海道でも山間地域に属する本町は同地域特有の年間積算温度が低い畑作には厳しい冷涼な気候で、また山間の限られた耕作地の中での農業という厳しい条件も重なり経営に難題が山積している。

2 作物ごとの取組方針

(1) 麦

秋まき小麦については、安定した収量確保と収穫作業の一層の効率化が重要課題であることから、小麦の生産拡大への効果的な取組として、排水対策や土壌分析を行うと共に共同利用の高性能機械等の導入により、作業の効率化や品質・収量の向上・安定化を図る。

(2) てん菜

てん菜については全道的な傾向と同じく近年は低糖化が否めず、糖分向上に向けての恒常的な排水対策として、有機質資材散布による土壌団粒化を行うと共に、緑肥による土質改善も同時に図っていく。

(3) でん粉原料用ばれいしょ

ジャガイモシストセンチュウを原因として減収傾向にあるでん粉原料用を中心としたばれいしょは、生産量回復に向けて抵抗性品種の促進や、てん菜等と併せて土壌分析による適正適肥によるコスト削減等を柱として対策を講じていく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 27 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
麦	226.03	234.61	235.00
大豆・小豆	0.96	7.5	4.00
てん菜	294.58	299.43	300.00
ばれいしょ	442.04	424.83	408.70
飼料作物	63.70	48.81	68.00
そば	187.06	231.27	205.00
なたね			
その他地域振興作物	47.21	40.10	46.00
野菜	10.66	5.10	7.00
地力増進	39.44	35.00	39.00

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 27 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (5) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組